街かど

街かどは、みなさんのページです。作品（絵画、写真、俳句、短歌、俳句、川柳、詩など）やご意見（テーマ）を募集しています。原則として必ず掲載します。また「われら仲間」や「私とスポーツ」にもぜひ。匿名希望者は匿名としますが、編集部には氏名を。投稿、連絡先　黒埼町大野一八四三の一　黒埼町役場内

われらフォトキチ

カメラ仲間・集団アート

私たち十二人は、二日酔いでもピントだけはピッタリという写真の腕の持ち主の集まりです。

というのも、月に一度は研究集会を開いているから。集会では、赤裸々な研究批評を互いに加え、写真談議に花を咲かせて親ぼくも計っています。

県展では毎年良い成績で、奨励賞連続三回の上沼ミツさんを始めとして、全員が入選経験の持ち主。腕前を十分に発揮してます。他にも年に二回、春と秋に撮影旅行に出かけてます。また、忘・新年会では一年間の反省と今後の構想、現像、引き伸ばしのテクニックを話し、いつの間にかカラオケとなり、夜がふけるのです。

さて、メンバーの紹介をしましょう。まず、前列右から

佐々木進 ― もっか改造カメラで接写に夢中です。

外山尹（かずき） ― 最近は接写とヌードに熱中。酒も楽しんでいます。

上沼ミツ ― カエルの世界の愛をテーマに、めざすは県展賞だけ。クラブ員の母親的存在です。

安達京子 ― まわりの生活をなんでもスナップ。特に庵地焼の陶芸をまとめたいと願っているカメラウーマン。

永井守 ― 育てた闘鶏をリアルに表現しようと努力中。

次に後列左から ―

大滝満 ― いちばんの勉強家、技功派。もっか成績上昇中。

鈴木和市 ― カラーも自家処理。いい色ありあり。

坂井俊文 ― 物静かに自己の世界を一点勝負。

阿部照雄 ― 風景を撮ったらクラブ一の腕前。

小泉勝 ― デザイン関係の職業柄、厳しい観察力の持ち主。

小熊泰生 ― カラーも現象。引き伸ばしも思いのまま、色の世界にたわむれる。

佐藤健治 ― 七色の虹の色を再現したいと言っている。

町のみなさん、写真に興味をお持ちのかた、入会してみようかなあなんて思っているかたは気軽にご入会してください。お待ちしております。

事務局（連絡先）

大野仲町

カメラのニューアート内

佐々木　（☎七―五三七五）

▼集団アートのみなさん

仕事に生きがいを

匿名希望（五十八歳）

最近まで考えてもみなかった今の仕事。五十の半ばも過ぎてから慣れぬ仕事に取組むなど思ってもみなかった。朝早くから身仕度をして長靴をはき朝スズメに送られて、迎えの車を待つのが毎日の日課。

晴れれば晴れたでそれぞれの仕事が忙しく人出が少ないのではと、雨が降れば降ったで出足が鈍るのではと、毎日心配の耐えることがない。でも運よく思うように仕事がはこんだ時はなんとも言えない喜びを感じる。

悲喜こもごも、毎日色々な人たちと接し、性格を知り、思いがけなくその人の良さを見つけたり、こんな日々をくり返しているうちになんと生きがいのある仕事だろうと思うようになった。

人間、現在の仕事に生きがいを感じて楽しく打ち込めれば、病気や疲れは逃げて行く。仕事をして若返ったような気がする。これからもがんばっていきたいと思う。

吾に言う
早く慣れろと
朝風が
背中をなでて
通りすぐ

俳句

石川恵美子

邪気払う風習も失せ軒菖蒲
菖蒲湯の香に誘われ吾子想う

佐藤キン

学ぶ孫に下げて上京笹ちまき
初夏の風孫とくるくる山手線
空豆や実りてカサゴソもみ干され
句帳手に草の若芽も吾友と

海津みよき

藤の花くぐり社（やしろ）を拝しけり

わたしとスポーツ ⑤

野球と審判

武井忠男（大明団地）

黒埼町にはいろいろなスポーツ団体や施設がありますが、スポーツ人口は野球がいちばん多いのではないでしょうか。

黒埼町野球連盟には、職場チーム、クラブチーム、町内チームなど四十七チーム、八百三十二名が登録されています。その他に小学生、中学生、高校生を含むと膨大な数になるのではないでしょうか。

私もスポーツとして二十年近く野球を楽しんできたせいか、大病もしないで今日までできています。さて野球には審判員が必要です。野球は好きだが審判するのは、ルールもわからないので苦手であるなどとよく耳にします。

私は、昭和四十二年下越支部審判員となり、白根地区でやってきましたが、審判とは習うより慣れろであり、多くの試合経験を積めばできると思います。

なお、五十一年から黒埼町野球連盟で審判をしています。

選手たちは、一投一打に全力を尽します。この一球を瞬間に審判するのですから苦労もあります。こんな苦労も試合が終わり、両チーム一列に並び「ありがとうございました」の一言でけが人も出ず無事ゲームが終わってよかったなあと苦労も忘れました。

野球に限らずスポーツには審判が不可決です。選手のみなさんは始まる時は「おねがいします」終わったら「ありがとうございました」の一言をぜひ守ってもらいたいと思います。

五月に開催された黒埼町近郷中学野球大会では、監督、コーチのかたが「スポーツは礼に始まり礼に終わる」ということを指導しているなと感じました。選手たちの動きもキビキビしていたようです。

スポーツは礼に始まり礼に終わる ― これがスポーツマンシップではないでしょうか。みなさんも体に合ったスポーツをして、健康向上のためにがんばりましょう。

踏石

竹の子

車から次々と降ろされる大きな石が、小さな庭を造るためには不釣合と思えるほど数多いのを見て、緑を植える土の場所があるのだろうかと心配したものだった。しかし、老練な庭師の頭の中に組み立てられた枯山水の姿は着々と形作られて、石はそれぞれの位置にほどよく組まれていった。

一メートル近い大きな平たい石群は、踏み石として土から十センチほど顔をのぞかせ、その石本体は土の中に埋められた。この踏石が最後の仕事で、あれほどたくさんあった石群が小さな庭と玄関前とで自らの場を得て安住したわけだ。

「いらっしゃいませ」「お帰りなさい」 ― ずっしりとした踏み石の上に立つとこういう声が聞こえる。朝夕の家の者の送迎、訪れる客へのもてなし。踏み安く立ち易い安定感と心利いた配置の美しさがなければこの石の声は空疎なものになる。

小さくても庭石として枯山水の役目を果たす石群の立役者的存在に比べ、踏石は建物全体の調和の上から置かれたものではあっても、あくまでそれは多分に実用性を持ついわば裏方さん的存在である。

しかし、裏方の役割は立役者以上に大切であると思う。というのは、家の支えである主婦の姿を踏石に見たからである。社会という舞台に立って存分な働きのできる立役者には、それ以上に裏方の力が必要であろう。踏石はそんなことを教えてくれている。

わが家に踏石が置かれて数年。雨、風、雪に耐えてまったく変わらぬこの踏石はますます風格を増してきたようだ。ちょうど働き盛りの主婦のように。

町民魚釣り大会　8日8日(日) 緒立横江排水路　申7　7月30日までに教育委員会へ
参加費　大人　300円・子供　100円